

エネルギー・環境会議（第15回） 議事録

1 日時： 平成24年10月19日（金） 10:39～10:52

2 場所： 官邸2階小ホール

3. 出席者：

議長	前原 誠司	国家戦略担当大臣
副議長	枝野 幸男	経済産業大臣
副議長	長浜 博行	環境大臣及び原発事故の収束及び再発防止担当大臣 内閣府特命担当大臣（原子力防災）
	藤村 修	内閣官房長官
	田中 眞紀子	文部科学大臣
	郡司 彰	農林水産大臣
	羽田 雄一郎	国土交通大臣
	齋藤 勁	内閣官房副長官
	芝 博一	内閣官房副長官
	竹歳 誠	内閣官房副長官
	白 眞勲	内閣府副大臣
	吉良 州司	外務副大臣
	岸本 周平	内閣府大臣政務官
	馬淵 澄夫	衆議院議員

4. 議題： 革新的エネルギー・環境戦略の進め方について

（前原国家戦略担当大臣）

本日は御多忙の中、御参集いただき誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより第15回「エネルギー・環境会議」を開会いたします。

本日は党よりエネルギー・環境調査会の馬淵会長に御出席をいただいております。

では、初めに官房長官から御発言をいただきます。

（藤村内閣官房長官）

9月14日にエネルギー・環境会議におきまして、革新的エネルギー・環境戦略というものを決定いたしました。年末を目途に取りまとめることになっております、グリーン政策大綱、電力システム改革戦略をはじめとして、この戦略に示されているエネルギー・環境政策の具体化、実施に直ちにに取り組む必要がございます。

これを着実に進めていくには、役割分担と工程管理を明確にした上で、関係各府省が密接に連携して取り組まなければなりません。このため本日は政策責任府省の役割、スケジュールなど戦略の具体的進め方について御説明をいただいた上、御議論を賜りたいと考えています。

各閣僚におかれては、今後とも政府一体となって戦略の着実な実施に取り組んでいただけるよう、活発な御議論をどうぞよろしくお願いいたします。

（報道関係者退室）

（前原国家戦略担当大臣）

早速、議事に入りたいと思います。先般決定したエネルギー・環境戦略の実施に向けて、関係各省が鋭意取り組んでいただいているところでありますが、特に期限を設け取りまとめることとしている各種大綱や計画などについては、当該期限を目指して策定作業を加速化する必要があります。そのためには政策責任府省の役割を明確化し、それぞれがどこで、いつまでに、どのような具体的政策を、どのような目標を持って遂行していくのかについて、関係閣僚の間で認識を共有しながら検討を進めつつ、節目節目でしっかりとその進捗を確認していただくことが重要です。

関係閣僚におかれては、本日の議論がそのスタートとなりますので、よろしくお願いいたします。詳細は国家戦略室の加藤審議官から説明してもらいます。

（内閣官房）

加藤でございます。資料1をごらんいただければと思います。

1枚おめくりいただきまして、進め方の基本方針と書いてございます。冒頭ただいま前原大臣からの御説明があった基本的な考え方を、文字で御確認いただければと思います。エネルギー・環境戦略の実施に直ちに着手をし、責任府省がどこで、いつまでに、どのよ

うな具体的政策を、どのような目標を持って遂行するか、期限を設けて取りまとめることとしております各種大綱や計画につきましては、期限を目指して策定作業を鋭意進める。さらに、足下の需給問題につきましては一切の予断を排し、厳正に評価をした上で節電等の要否を含めて判断をするということでございます。

それを表として整理したものが2ページでございます。この中で革新的エネルギー・環境戦略で決められたことを整理してございます。一番左側に具体化すべき政策項目、その隣に、その政策を検討する主体または場、検討すべき具体的な中身、そして、その検討の期限ということでございます。

原子力政策に関しましては、エネルギー・環境会議の場を中心としまして核燃料サイクル等々5項目につきまして検討する。特に(2)の人材や技術の維持強化につきましては、本年末までに取りまとめるということが決められてございます。以下、原子力委員会の見直し、グリーン政策大綱、電力システム改革戦略、地球温暖化対策の計画、それぞれにつきまして同じような整理をさせていただいております、エネ環がしっかりこれを工程管理していくということでございます。

1枚おめくりいただきまして、さらに司・司というのは具体的な政策項目ごとにおいて、どこかというものを明らかにしておりますのが3ページの表でございます。核燃料サイクルにつきましては研究開発関係で文科省と経産省、バックエンド関係につきましては経産省ということで、挙証責任、説明責任を果たすべき責任の所在を明らかにした上で、年末までにもんじゅ等の研究開発方針の中間報告をするというようなことを踏まえて整理したものでございます。御確認いただければと思います。

1枚おめくりいただきまして、さらに具体的に当面の工程を線表ベースで整理したものが4ページ以降でございます。原子力政策につきまして全体総括をエネ環会議が担っていくわけでございます。核燃サイクルにつきましては文科省、経産省、人材技術の維持強化につきましても同じく。国際社会との連携に関しましては、当然外務省との連携もさらに加えまして検討を進めてまいります。特に人材技術につきましては、年末までに期限を設けて検討するということになっておりますので、エネ環会議も12月にはその決定のための会合を開催する必要があると思います。そのためには、その前に中間的に決定すべきものについて御議論いただく機会も必要だということございまして、これから11月、12月と毎月のように開催していくことが必要だと考えております。

同様の整理を原子力委員会の見直しについても次のページに記載をしてございます。検討の場といたしましては前原大臣のもとに有識者会合を開催いたしまして、原子力政策、原子力委員会の歴史、流れ、あるいは国際比較などにつきまして、有識者の方の御意見を賜りながら整理をして、年末に見直し案という形で取りまとめてまいりたい。それをエネ環会議の場にお諮りをしたいと考えてございます。

1枚おめくりいただきましてグリーン政策大綱でございます。全体の総括をエネ環会議が進めてまいりますけれども、グリーンの場合には大変範囲が広うございますので、でき

るだけ可視的な議論をもって具体性を上げていくことが重要だと思います。その上では幾つかの先導的な分野を明らかにした上で、国家戦略室が関係省庁の協力を得ながら議論を進めていくということで、これも年末にかけて大綱案として取りまとめていき、それをエネ環会議による検証につなげていくということでございます。

説明は以上でございます。

（前原国家戦略担当大臣）

ありがとうございました。

それでは、革新的エネルギー・環境戦略の進め方について、御質問や御意見はございますでしょうか。経産大臣、お願いします。

（枝野経済産業大臣）

ただいま御報告いただいた戦略についての進め方については、経済産業省は多々責任の重い分野を担当しております。しっかり取り組んでまいりたいと思います。

これらとの関係で、エネルギー基本計画の策定について一言御報告をしたいと思います。ただいま御報告いただいたとおり、グリーン政策大綱、電力システム改革、原子力人材技術の維持強化策などの原子力政策は、政府の総合的な基本方針であるエネルギー基本計画に盛り込むべき主要部分を構成いたしております。一方で、従来の基本計画を白紙に戻すというところがはっきりしているわけでありますので、できるだけ速やかに基本計画策定をしてまいりたいと思いますが、まずは本日の議論そして今、申し上げたグリーン政策大綱その他の今後のプログラムを総合資源エネルギー調査会に報告した上で、調査会の委員の皆さんの御意見も踏まえて具体的な進め方を検討してまいりたいと思っております。

以上です。

（前原国家戦略担当大臣）

ありがとうございました。

環境大臣、お願いします。

（長浜環境大臣）

御承知のように、京都議定書第一約束期間の最終年度を迎えているところでございます。引き続き積極的に地球温暖化対策に取り組む我が国の意志を、国内外に明らかにしていくことが重要だとも考えております。

革新的エネルギー・環境戦略を踏まえて、本年末までに、ここに書かれているとおり、2020年の削減目標を含む新たな地球温暖化対策計画を策定することになるということでございます。内閣官房及び経産省と協力をしまして、各省の幅広い施策を取りまとめてい

くために、早急に作業を進めさせていただきたいと考えておりますので、関係各大臣の御協力をよろしくお願い申し上げます。

（前原国家戦略担当大臣）

ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。外務副大臣、お願いします。

（吉良外務副大臣）

エネルギー・環境政策を進めるに当たっての外務省としての考えを簡単に披露させていただきたいと思います。

エネルギー・環境政策を進めるに当たっては、米国、フランス、英国を初めとする諸外国との連携や、国際交渉に与える影響に配慮した慎重な対応が必要だと思っております。その観点から外務省としての関与が明記されております原子力政策における国際社会との連携に加え、地球温暖化対策の計画等の策定に向けた検討や、エネルギー安定供給の確保のための取り組みにも外務省として積極的に貢献していく考えであります。

また、我が国が原子力平和利用国としてこれまで培ってきた核軍縮、不拡散及び原子力安全等の分野での人材や技術の散逸を防ぐことが重要だと考えております。人材や技術を維持した上で、これらの分野での国際貢献を引き続き行いたいと考えております。

以上です。

（前原国家戦略担当大臣）

ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。今、外務副大臣おっしゃったように、この3枚目について検討項目ごとの進め方についてということで、左に検討項目、真ん中に年末までの進め方ということで、特に具体的な役所名が書いてあるもの、書いていないもの等がございますけれども、地球温暖化対策の計画は外務省書いてございませんが、当然ながらこれは外交交渉等で必要なものでもありますし、他のものについても他の役所にかかわっていただく面というのは、この国際社会の連携以外にもあると思いますので、それについては柔軟に、別々書いてあるところだけが行うということではございませんので、また御協力をいただければということで、文章としてはこういう形でまとめさせていただきますが、吉良副大臣からお話のありました形で、外務省にも必要なところはぜひコミットメントさせていただきたいと思っております。

ほかにございますか。大事な政策ですので、党とも連携しながら進めさせていただきたいと思っておりますので、馬淵会長におかれましては御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、革新的エネルギー・環境戦略の進め方については、本資料の整理に基本的には従って進めてまいりたいと考えております。

戦略の具体化に当たりまして、グリーン政策大綱を初めとして本年末にも取りまとめを行うものもあります。本日御議論いただいた役割分担に従って作業を加速化し、しっかりと成案が得られるよう、各閣僚の皆さんにおかれては引き続き御指導、御協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、これをもちまして「エネルギー・環境会議」第15回会合を終了させていただきます。

なお、今回配付資料は公開とさせていただきます。会議の内容は後ほど私から閣議後会見の中でブリーフィングさせていただきます。本日はありがとうございました。

(了)